

クリンテートシリーズ「調光ライト」の効果確認試験



JA北はるか

吉田 公司



①DX(8年目) 27℃(全体的に暗い)



②調光ライト 27℃(ハウス内光が入っている)



③調光ライト 27℃

試験目的

クリンテートシリーズ「調光ライト」の効果確認試験

試験作物 及び品種

トマト

試験資材 及び数量(規格)

調光ライト(0.1mm×540cm×61m) 2枚

慣行資材

クリンテートDX(0.1mm×540cm×61m) 2枚(8年目)

栽培方法

定植日

慣行区:4月
試験区:4月

収穫日

慣行区:6月
試験区:6月

資材使用期間

4月中旬～10月中旬

試験区面積

450㎡

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

通常のクリンテートと全く差はなかった。

展張当初は気温が低く透明だったため、差は見られなかった。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

対照区のハウスはトマトの品種が異なったりと、正確に比較することはできなかったが、大きな差は見られなかった。

30℃を超えて真っ白になった時は、8年目のクリンテートDXと同じような白さだった。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】：葉焼け防止になる。

【問題点】：特になし。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

今回は0.1mm厚品を展張したが、強度は全く問題ない。

0.15mm厚の調光は耐久性が高いタイプということなので、そちらはかけっぱなしにしておくハウスに使用するといいと思う。

(5)促成・抑制効果について

高温時の影のでき方が異なった。

調光ライトは明るい中にぼやとした影ができ、対照区のハウスではハウス内に入る光の量自体が減っているため影も薄かった。

作物にあたる光の量が保てることは、トマトの色づきや生育に差が出ると思われる。

モニター感想

慣行では遮光ネットを使用していないが、気温が高いと散乱光になってくれるので、作物にかかる負荷が減り、葉焼けなどが軽減されることが期待できた。

比較試験というには対照区との条件差があったため、正確には比較ができなかったことが残念だった。

JA担当者の感想(購買課 松永係長)

調光は非常に斬新な資材で、今後のハウス栽培に大きな変化をもたらすと思われる。

ただ、調光は高級品なため、今後普及が増えて価格が下がってくれないと普及は難しいかもしれない。

一方で、カゲナシや美サンランなどの散乱光フィルムと呼ばれる通年白いフィルムもあるが、天候を考えると温度もほしい。

価格に妥協せず地域・農家の作業方法・作物にマッチした資材を選定していくことが結果的に収量増につながるのではないかと。

今後の使用について

継続して使用したい。

次年度は通年展張ハウス用に、0.15mm厚の調光を購入した。

1 高温対策

2 害虫忌避効果

3 調光フィルム

4 シェードネット

5 クリンテート

6 マルチ

7 不織布

8 育苗資材

9 酪農資材

10 その他